

# ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所  
農業改良普及課

〒496-8532 津島市西柳原町

1-14

今回は、肥料や堆肥成分の役割から土壌診断を考えてみましょう。

## 1 肥料の6要素の効果

### (1) 窒素 (N)

タンパク質の主成分。根や葉の生長を促進するため、「葉肥」とも呼ばれます。過剰に与えると病害虫に弱くなり、不足すると葉が黄色くなって落葉します。

### (2) リン酸 (P)

開花と結実に関係し、「花肥」「実肥」とも呼ばれます。花付きや実付きをよくするのに必要な要素です。植物体内のエネルギー伝達で重要な役割があります。

### (3) カリウム (K)

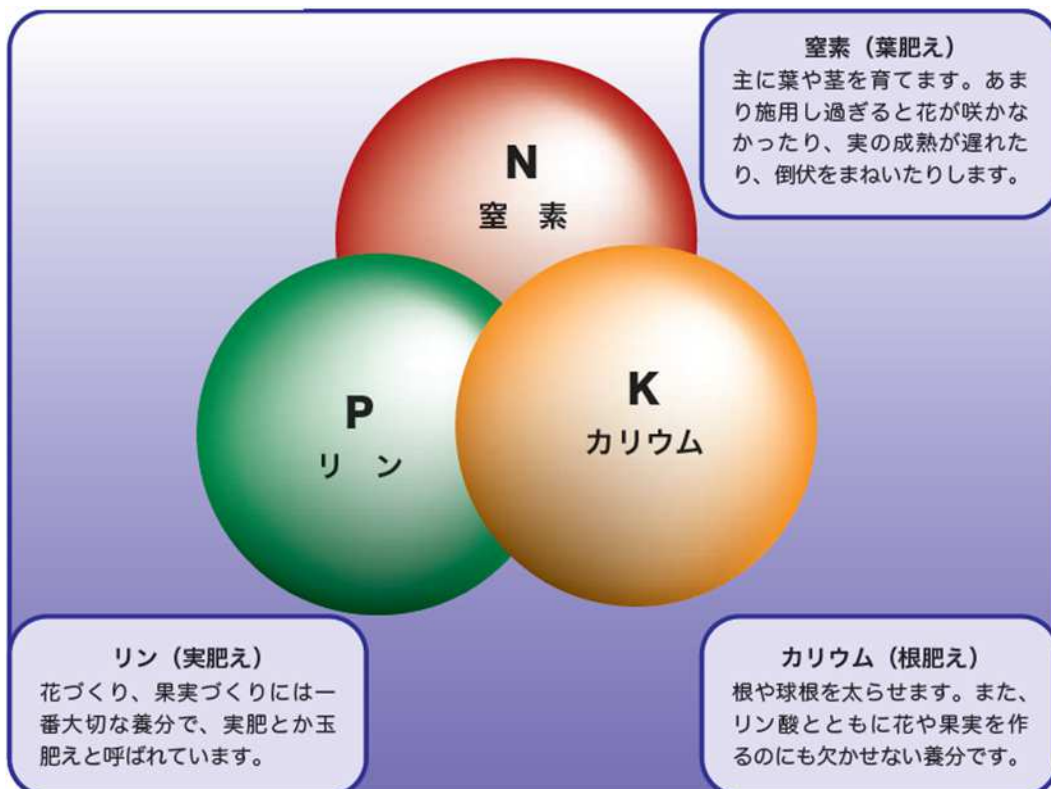
根の発育を促進するため、「根肥」と呼ばれています。光合成や炭水化物の移動や蓄積にも関係し、開花や結実を促進する働きもあります。

### (4) カルシウム (Ca)

細胞同士を強く結びつけ、根の伸長を促進する働きがあります。植物体内の有機酸を中和する役割もあります。

### (5) マグネシウム (Mg)

光合成に必要な葉緑素の成分です。リン酸の吸収と体内移動にも関与しています。



(6) イオウ (S)

窒素と同様、タンパク質の主成分です。ビタミンなどの化合物も作ります。リン酸と同じくらい多量に必要で不足すると病害虫に弱くなります。

2 畑地土

土壤診断から、下の表を確認してみ

壤の改善目標

結果を受け取ったを目安に改善目標をしましょう。

表 1 普通畑における改善目標

土壌の性質	土壌の種類		
	褐色森林土、褐色低地土、黄色土、灰色低地土、泥炭土、暗赤色土、赤色土、グライ土	黒ボク土、多湿黒ボク土	岩屑土、砂丘未熟土
作土の厚さ	25cm 以上		
主要根群域の最大ち密度	山中式硬度計で22mm 以下		
主要根群域の粗孔隙量	粗孔隙の容量で10%以上		
主要根群域の易有効水分保持能	20mm/40cm以上		
pH	6.0以上6.5以下 (石灰質土壌では6.0以上8.0以下)		
陽イオン交換容量 (CEC)	乾土100g当たり12meq以上 (ただし中粒質の土壌では8meq以上)	乾土100g当たり15meq以上	乾土100g当たり10meq以上
塩基状態	塩基飽和度	カルシウム、マグネシウムおよびカリウムイオンが CEC の70~90%を飽和すること	同左イオンが CEC の60~90%を飽和すること
	塩基組成	カルシウム、マグネシウムおよびカリウム含有量の当量比、(65~75):(20~25):(2~10) であること	
有効態リン酸含有量	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上100mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下
可給態窒素含有量	乾土100g 当たり N として5mg 以上		
土壌有機物含有量	乾土100g当たり3g以上	—	乾土100g当たり2g以上
電気伝導度	0.2mS/cm以下		0.1mS/cm以下

表 2 畑の植え付け前の適性 EC の目安 (mS/cm)

土の種類	作物の種類	
	果菜類	葉・根菜類
腐植質黒ボク土	0.3~0.8	0.2~0.6
粘質土・沖積土	0.2~0.7	0.2~0.5
砂質土 (砂丘・未熟土)	0.1~0.4	0.1~0.3

出典：図解でよくわかる農業のきほん（誠文堂新光社）、土壤診断によるバランスのとれた土づくりー土壤診断による土づくりは健康的で美しい作物作りの第一歩ー（財団法人 日本土壤協会）

# ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所  
農業改良普及課

〒496-8532 津島市西柳原町

1-14

今回は、肥料や堆肥成分の役割から土壌診断を考えてみましょう。

## 1 肥料の6要素の効果

### (1) 窒素 (N)

タンパク質の主成分。根や葉の生長を促進するため、「葉肥」とも呼ばれます。過剰に与えると病害虫に弱くなり、不足すると葉が黄色くなって落葉します。

### (2) リン酸 (P)

開花と結実に関係し、「花肥」「実肥」とも呼ばれます。花付きや実付きをよくするのに必要な要素です。植物体内のエネルギー伝達で重要な役割があります。

### (3) カリウム (K)

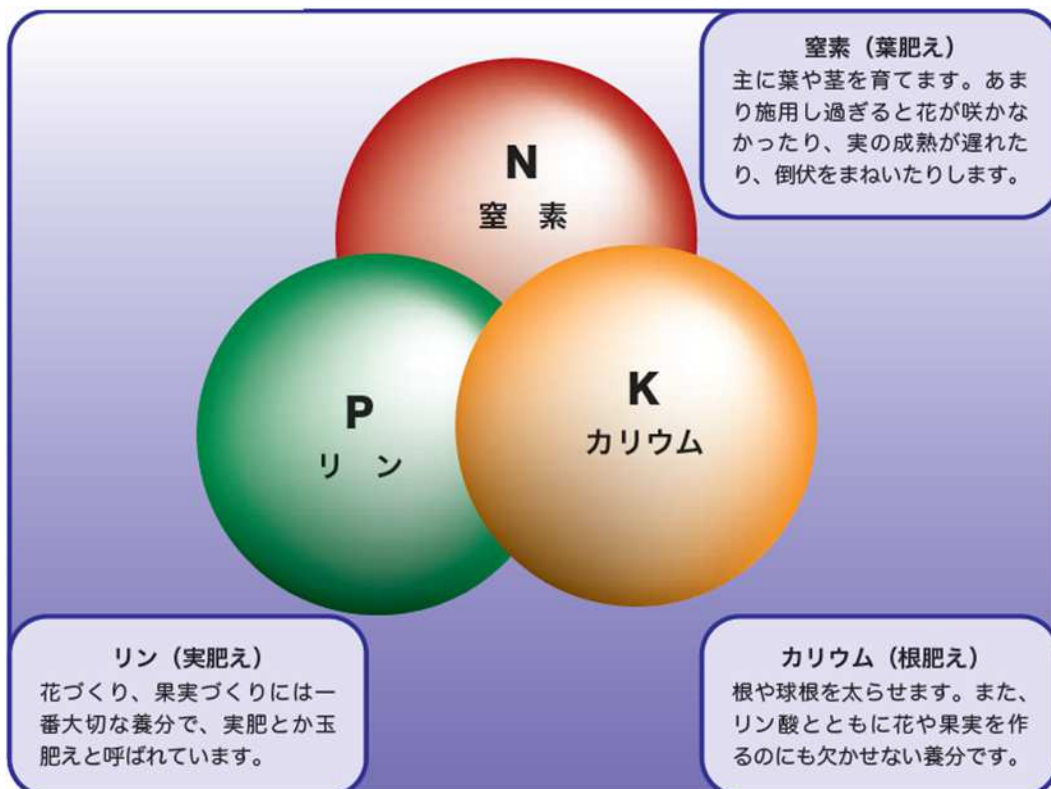
根の発育を促進するため、「根肥」と呼ばれています。光合成や炭水化物の移動や蓄積にも関係し、開花や結実を促進する働きもあります。

### (4) カルシウム (Ca)

細胞同士を強く結びつけ、根の伸長を促進する働きがあります。植物体内の有機酸を中和する役割もあります。

### (5) マグネシウム (Mg)

光合成に必要な葉緑素の成分です。リン酸の吸収と体内移動にも関与しています。



(6) イオウ (S)

窒素と同様、タンパク質の主成分です。ビタミンなどの化合物も作ります。リン酸と同じくらい多量に必要で不足すると病害虫に弱くなります。

2 畑地土

土壤診断から、下の表を確認してみ

壤の改善目標

結果を受け取ったを目安に改善目標をしましょう。

表 1 普通畑における改善目標

土壌の性質	土壌の種類		
	褐色森林土、褐色低地土、黄色土、灰色低地土、泥炭土、暗赤色土、赤色土、グライ土	黒ボク土、多湿黒ボク土	岩屑土、砂丘未熟土
作土の厚さ	25cm 以上		
主要根群域の最大ち密度	山中式硬度計で22mm 以下		
主要根群域の粗孔隙量	粗孔隙の容量で10%以上		
主要根群域の易有効水分保持能	20mm/40cm以上		
pH	6.0以上6.5以下 (石灰質土壌では6.0以上8.0以下)		
陽イオン交換容量 (CEC)	乾土100g当たり12meq以上 (ただし中粒質の土壌では8meq以上)	乾土100g当たり15meq以上	乾土100g当たり10meq以上
塩基状態	塩基飽和度	カルシウム、マグネシウムおよびカリウムイオンが CEC の70~90%を飽和すること	同左イオンが CEC の60~90%を飽和すること
	塩基組成	カルシウム、マグネシウムおよびカリウム含有量の当量比、(65~75):(20~25):(2~10) であること	
有効態リン酸含有量	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上100mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下
可給態窒素含有量	乾土100g 当たり N として5mg 以上		
土壌有機物含有量	乾土100g当たり3g以上	—	乾土100g当たり2g以上
電気伝導度	0.2mS/cm以下		0.1mS/cm以下

表 2 畑の植え付け前の適性 EC の目安 (mS/cm)

土の種類	作物の種類	
	果菜類	葉・根菜類
腐植質黒ボク土	0.3~0.8	0.2~0.6
粘質土・沖積土	0.2~0.7	0.2~0.5
砂質土 (砂丘・未熟土)	0.1~0.4	0.1~0.3

出典：図解でよくわかる農業のきほん（誠文堂新光社）、土壤診断によるバランスのとれた土づくりー土壤診断による土づくりは健康的で美しい作物作りの第一歩ー（財団法人 日本土壤協会）

# ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所  
農業改良普及課

〒496-8532 津島市西柳原町

1-14

今回は、肥料や堆肥成分の役割から土壌診断を考えてみましょう。

## 1 肥料の6要素の効果

### (1) 窒素 (N)

タンパク質の主成分。根や葉の生長を促進するため、「葉肥」とも呼ばれます。過剰に与えると病害虫に弱くなり、不足すると葉が黄色くなって落葉します。

### (2) リン酸 (P)

開花と結実に関係し、「花肥」「実肥」とも呼ばれます。花付きや実付きをよくするのに必要な要素です。植物体内のエネルギー伝達で重要な役割があります。

### (3) カリウム (K)

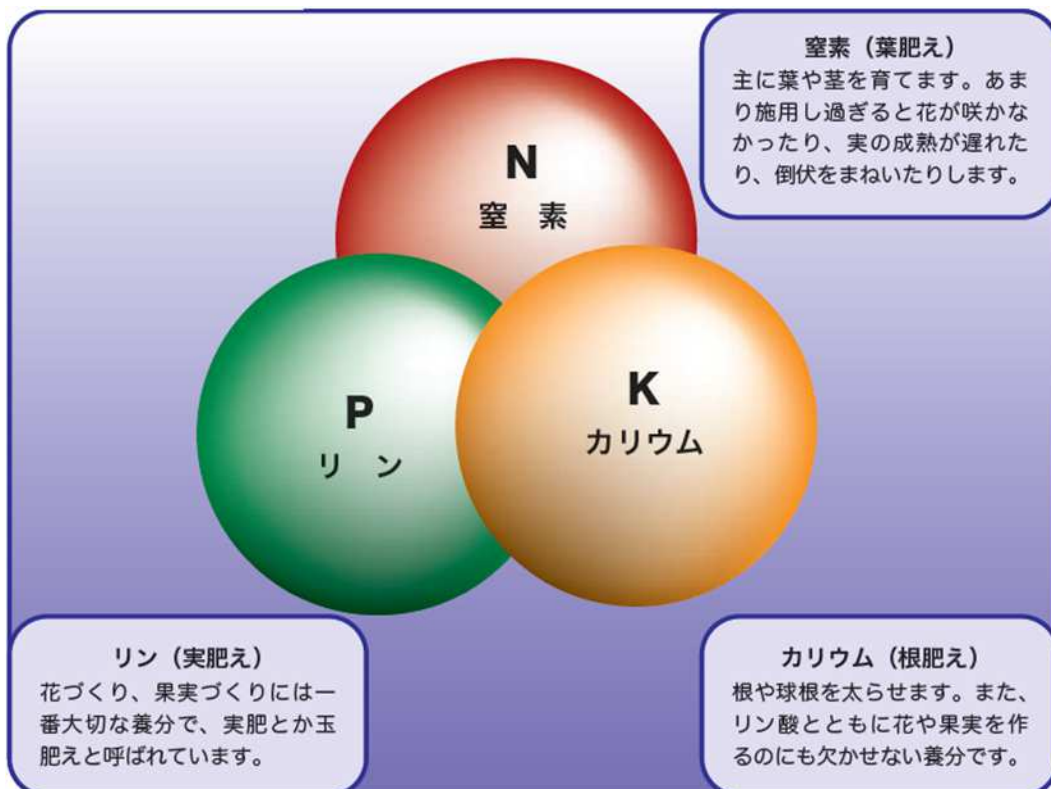
根の発育を促進するため、「根肥」と呼ばれています。光合成や炭水化物の移動や蓄積にも関係し、開花や結実を促進する働きもあります。

### (4) カルシウム (Ca)

細胞同士を強く結びつけ、根の伸長を促進する働きがあります。植物体内の有機酸を中和する役割もあります。

### (5) マグネシウム (Mg)

光合成に必要な葉緑素の成分です。リン酸の吸収と体内移動にも関与しています。



(6) イオウ (S)

窒素と同様、タンパク質の主成分です。ビタミンなどの化合物も作ります。リン酸と同じくらい多量に必要で不足すると病害虫に弱くなります。

2 畑地土

土壤診断から、下の表を確認してみ

壤の改善目標

結果を受け取ったを目安に改善目標をしましょう。

表 1 普通畑における改善目標

土壌の性質	土壌の種類		
	褐色森林土、褐色低地土、黄色土、灰色低地土、泥炭土、暗赤色土、赤色土、グライ土	黒ボク土、多湿黒ボク土	岩屑土、砂丘未熟土
作土の厚さ	25cm 以上		
主要根群域の最大ち密度	山中式硬度計で22mm 以下		
主要根群域の粗孔隙量	粗孔隙の容量で10%以上		
主要根群域の易有効水分保持能	20mm/40cm以上		
pH	6.0以上6.5以下 (石灰質土壌では6.0以上8.0以下)		
陽イオン交換容量 (CEC)	乾土100g当たり12meq以上 (ただし中粒質の土壌では8meq以上)	乾土100g当たり15meq以上	乾土100g当たり10meq以上
塩基状態	塩基飽和度	カルシウム、マグネシウムおよびカリウムイオンが CECの70~90%を飽和すること	同左イオンが CECの60~90%を飽和すること
	塩基組成	カルシウム、マグネシウムおよびカリウム含有量の当量比、(65~75):(20~25):(2~10) であること	
有効態リン酸含有量	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上100mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下
可給態窒素含有量	乾土100g 当たり N として5mg 以上		
土壌有機物含有量	乾土100g当たり3g以上	—	乾土100g当たり2g以上
電気伝導度	0.2mS/cm以下		0.1mS/cm以下

表 2 畑の植え付け前の適性 EC の目安 (mS/cm)

土の種類	作物の種類	
	果菜類	葉・根菜類
腐植質黒ボク土	0.3~0.8	0.2~0.6
粘質土・沖積土	0.2~0.7	0.2~0.5
砂質土 (砂丘・未熟土)	0.1~0.4	0.1~0.3

出典：図解でよくわかる農業のきほん（誠文堂新光社）、土壌診断によるバランスのとれた土づくりー土壌診断による土づくりは健康的で美しい作物作りの第一歩ー（財団法人 日本土壌協会）

# ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所  
農業改良普及課

〒496-8532 津島市西柳原町

1-14

今回は、肥料や堆肥成分の役割から土壌診断を考えてみましょう。

## 1 肥料の6要素の効果

### (1) 窒素 (N)

タンパク質の主成分。根や葉の生長を促進するため、「葉肥」とも呼ばれます。過剰に与えると病害虫に弱くなり、不足すると葉が黄色くなって落葉します。

### (2) リン酸 (P)

開花と結実に関係し、「花肥」「実肥」とも呼ばれます。花付きや実付きをよくするのに必要な要素です。植物体内のエネルギー伝達で重要な役割があります。

### (3) カリウム (K)

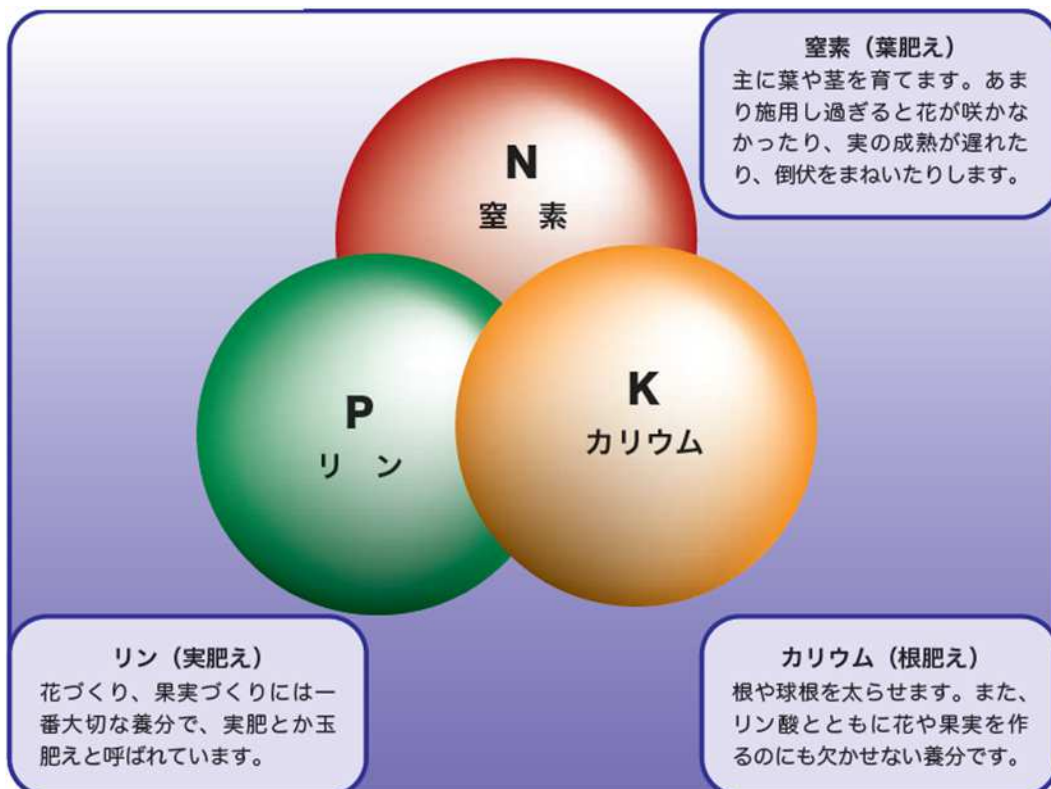
根の発育を促進するため、「根肥」と呼ばれています。光合成や炭水化物の移動や蓄積にも関係し、開花や結実を促進する働きもあります。

### (4) カルシウム (Ca)

細胞同士を強く結びつけ、根の伸長を促進する働きがあります。植物体内の有機酸を中和する役割もあります。

### (5) マグネシウム (Mg)

光合成に必要な葉緑素の成分です。リン酸の吸収と体内移動にも関与しています。



(6) イオウ (S)

窒素と同様、タンパク質の主成分です。ビタミンなどの化合物も作ります。リン酸と同じくらい多量に必要で不足すると病害虫に弱くなります。

2 畑地土

土壤診断ら、下の表確認してみ

壤の改善目標

結果を受け取ったを目安に改善目標をしましょう。

表 1 普通畑における改善目標

土壌の性質	土壌の種類		
	褐色森林土、褐色低地土、黄色土、灰色低地土、泥炭土、暗赤色土、赤色土、グライ土	黒ボク土、多湿黒ボク土	岩屑土、砂丘未熟土
作土の厚さ	25cm 以上		
主要根群域の最大ち密度	山中式硬度計で22mm 以下		
主要根群域の粗孔隙量	粗孔隙の容量で10%以上		
主要根群域の易有効水分保持能	20mm/40cm以上		
pH	6.0以上6.5以下 (石灰質土壌では6.0以上8.0以下)		
陽イオン交換容量 (CEC)	乾土100g当たり12meq以上 (ただし中粒質の土壌では8meq以上)	乾土100g当たり15meq以上	乾土100g当たり10meq以上
塩基状態	塩基飽和度	カルシウム、マグネシウムおよびカリウムイオンが CECの70~90%を飽和すること	同左イオンが CECの60~90%を飽和すること
	塩基組成	カルシウム、マグネシウムおよびカリウム含有量の当量比、(65~75):(20~25):(2~10) であること	
有効態リン酸含有量	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上100mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下
可給態窒素含有量	乾土100g 当たり Nとして5mg 以上		
土壌有機物含有量	乾土100g当たり3g以上	—	乾土100g当たり2g以上
電気伝導度	0.2mS/cm以下		0.1mS/cm以下

表 2 畑の植え付け前の適性 EC の目安 (mS/cm)

土の種類	作物の種類	
	果菜類	葉・根菜類
腐植質黒ボク土	0.3~0.8	0.2~0.6
粘質土・沖積土	0.2~0.7	0.2~0.5
砂質土 (砂丘・未熟土)	0.1~0.4	0.1~0.3

出典：図解でよくわかる農業のきほん（誠文堂新光社）、土壌診断によるバランスのとれた土づくりー土壌診断による土づくりは健康的で美しい作物作りの第一歩ー（財団法人 日本土壌協会）



# ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所  
農業改良普及課

〒496-8532 津島市西柳原町

1-14

今回は、肥料や堆肥成分の役割から土壌診断を考えてみましょう。

## 1 肥料の6要素の効果

### (1) 窒素 (N)

タンパク質の主成分。根や葉の生長を促進するため、「葉肥」とも呼ばれます。過剰に与えると病害虫に弱くなり、不足すると葉が黄色くなって落葉します。

### (2) リン酸 (P)

開花と結実に関係し、「花肥」「実肥」とも呼ばれます。花付きや実付きをよくするのに必要な要素です。植物体内のエネルギー伝達で重要な役割があります。

### (3) カリウム (K)

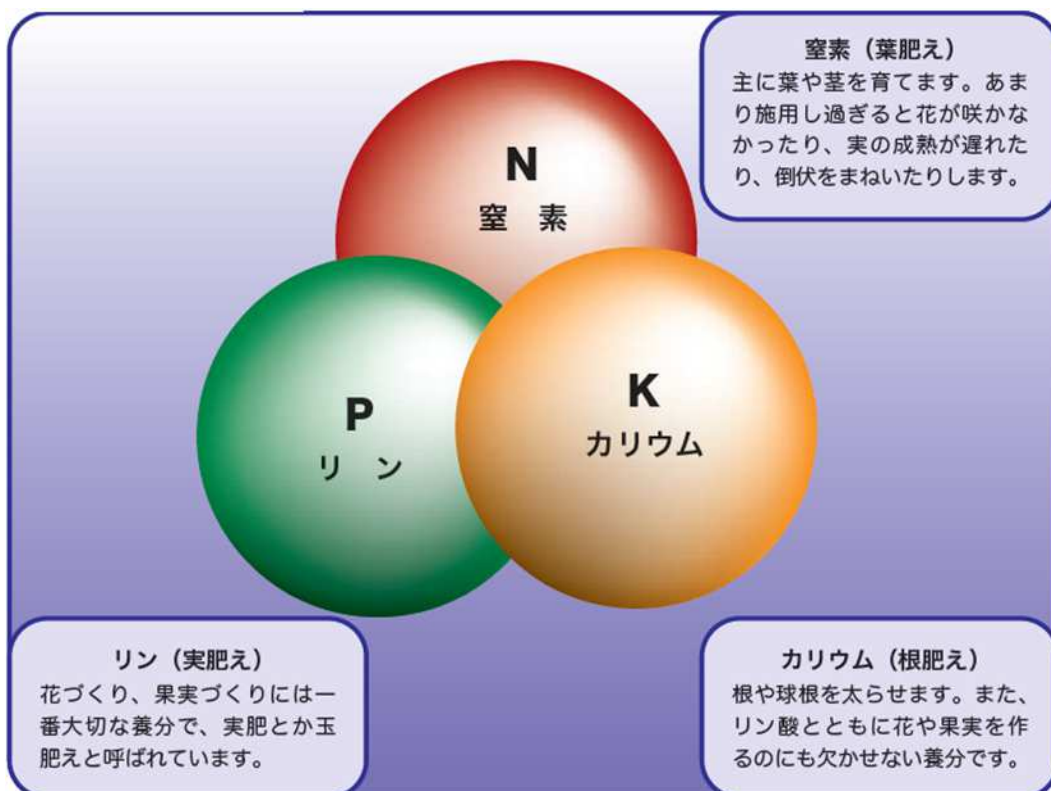
根の発育を促進するため、「根肥」と呼ばれています。光合成や炭水化物の移動や蓄積にも関係し、開花や結実を促進する働きもあります。

### (4) カルシウム (Ca)

細胞同士を強く結びつけ、根の伸長を促進する働きがあります。植物体内の有機酸を中和する役割もあります。

### (5) マグネシウム (Mg)

光合成に必要な葉緑素の成分です。リン酸の吸収と体内移動にも関与しています。



(6) イオウ (S)

窒素と同様、タンパク質の主成分です。ビタミンなどの化合物も作ります。リン酸と同じくらい多量に必要で不足すると病害虫に弱くなります。

2 畑地土

土壤診断から、下の表を確認してみ

壤の改善目標

結果を受け取ったを目安に改善目標をしましょう。

表 1 普通畑における改善目標

土壌の性質	土壌の種類		
	褐色森林土、褐色低地土、黄色土、灰色低地土、泥炭土、暗赤色土、赤色土、グライ土	黒ボク土、多湿黒ボク土	岩屑土、砂丘未熟土
作土の厚さ	25cm 以上		
主要根群域の最大ち密度	山中式硬度計で22mm 以下		
主要根群域の粗孔隙量	粗孔隙の容量で10%以上		
主要根群域の易有効水分保持能	20mm/40cm以上		
pH	6.0以上6.5以下 (石灰質土壌では6.0以上8.0以下)		
陽イオン交換容量 (CEC)	乾土100g当たり12meq以上 (ただし中粒質の土壌では8meq以上)	乾土100g当たり15meq以上	乾土100g当たり10meq以上
塩基状態	塩基飽和度	カルシウム、マグネシウムおよびカリウムイオンが CECの70~90%を飽和すること	同左イオンが CECの60~90%を飽和すること
	塩基組成	カルシウム、マグネシウムおよびカリウム含有量の当量比、(65~75):(20~25):(2~10) であること	
有効態リン酸含有量	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上100mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下
可給態窒素含有量	乾土100g 当たり N として5mg 以上		
土壌有機物含有量	乾土100g当たり3g以上	—	乾土100g当たり2g以上
電気伝導度	0.2mS/cm以下		0.1mS/cm以下

表 2 畑の植え付け前の適性 EC の目安 (mS/cm)

土の種類	作物の種類	
	果菜類	葉・根菜類
腐植質黒ボク土	0.3~0.8	0.2~0.6
粘質土・沖積土	0.2~0.7	0.2~0.5
砂質土 (砂丘・未熟土)	0.1~0.4	0.1~0.3

出典：図解でよくわかる農業のきほん（誠文堂新光社）、土壤診断によるバランスのとれた土づくりー土壤診断による土づくりは健康的で美しい作物作りの第一歩ー（財団法人 日本土壤協会）

# ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所  
農業改良普及課

〒496-8532 津島市西柳原町

1-14

今回は、肥料や堆肥成分の役割から土壌診断を考えてみましょう。

## 1 肥料の6要素の効果

### (1) 窒素 (N)

タンパク質の主成分。根や葉の生長を促進するため、「葉肥」とも呼ばれます。過剰に与えると病害虫に弱くなり、不足すると葉が黄色くなって落葉します。

### (2) リン酸 (P)

開花と結実に関係し、「花肥」「実肥」とも呼ばれます。花付きや実付きをよくするのに必要な要素です。植物体内のエネルギー伝達で重要な役割があります。

### (3) カリウム (K)

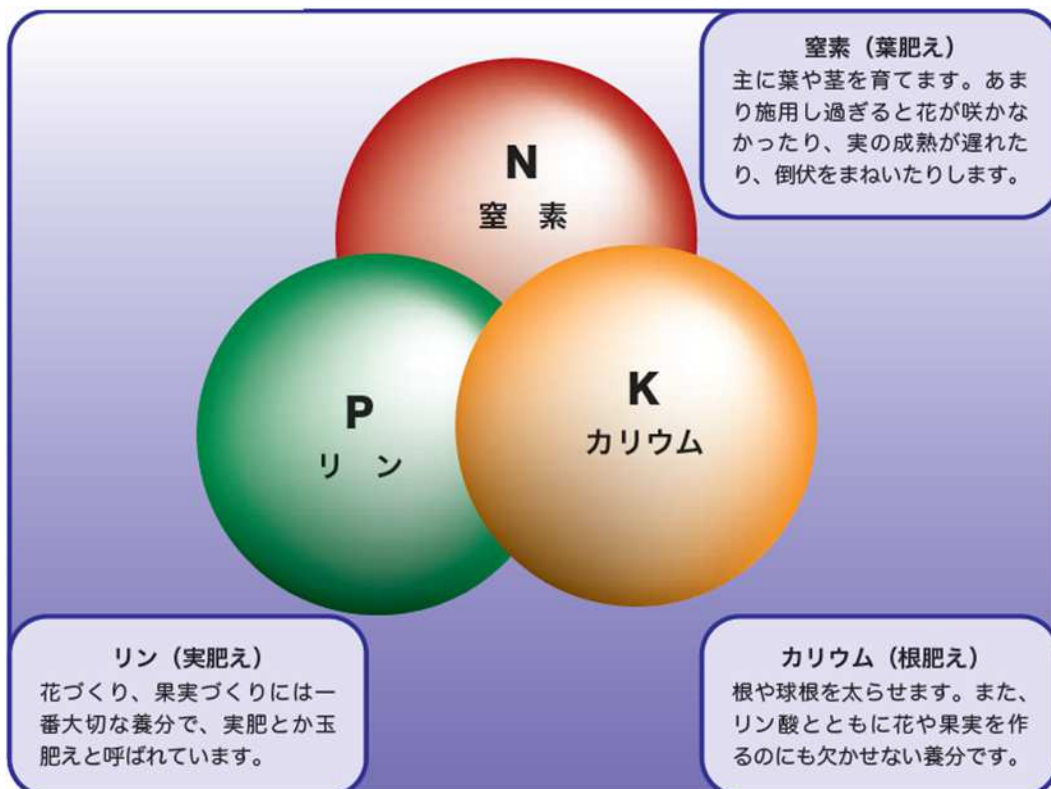
根の発育を促進するため、「根肥」と呼ばれています。光合成や炭水化物の移動や蓄積にも関係し、開花や結実を促進する働きもあります。

### (4) カルシウム (Ca)

細胞同士を強く結びつけ、根の伸長を促進する働きがあります。植物体内の有機酸を中和する役割もあります。

### (5) マグネシウム (Mg)

光合成に必要な葉緑素の成分です。リン酸の吸収と体内移動にも関与しています。



(6) イオウ (S)

窒素と同様、タンパク質の主成分です。ビタミンなどの化合物も作ります。リン酸と同じくらい多量に必要で不足すると病害虫に弱くなります。

2 畑地土

土壤診断から、下の表を確認してみ

壤の改善目標

結果を受け取ったを目安に改善目標をしましょう。

表 1 普通畑における改善目標

土壌の性質	土壌の種類		
	褐色森林土、褐色低地土、黄色土、灰色低地土、泥炭土、暗赤色土、赤色土、グライ土	黒ボク土、多湿黒ボク土	岩屑土、砂丘未熟土
作土の厚さ	25cm 以上		
主要根群域の最大ち密度	山中式硬度計で22mm 以下		
主要根群域の粗孔隙量	粗孔隙の容量で10%以上		
主要根群域の易有効水分保持能	20mm/40cm以上		
pH	6.0以上6.5以下 (石灰質土壌では6.0以上8.0以下)		
陽イオン交換容量 (CEC)	乾土100g当たり12meq以上 (ただし中粒質の土壌では8meq以上)	乾土100g当たり15meq以上	乾土100g当たり10meq以上
塩基状態	塩基飽和度	カルシウム、マグネシウムおよびカリウムイオンが CECの70~90%を飽和すること	同左イオンが CECの60~90%を飽和すること
	塩基組成	カルシウム、マグネシウムおよびカリウム含有量の当量比、(65~75):(20~25):(2~10) であること	
有効態リン酸含有量	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上100mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下
可給態窒素含有量	乾土100g 当たり Nとして5mg 以上		
土壌有機物含有量	乾土100g当たり3g以上	—	乾土100g当たり2g以上
電気伝導度	0.2mS/cm以下		0.1mS/cm以下

表 2 畑の植え付け前の適性 EC の目安 (mS/cm)

土の種類	作物の種類	
	果菜類	葉・根菜類
腐植質黒ボク土	0.3~0.8	0.2~0.6
粘質土・沖積土	0.2~0.7	0.2~0.5
砂質土 (砂丘・未熟土)	0.1~0.4	0.1~0.3

出典：図解でよくわかる農業のきほん（誠文堂新光社）、土壤診断によるバランスのとれた土づくりー土壤診断による土づくりは健康的で美しい作物作りの第一歩ー（財団法人 日本土壤協会）

# ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所  
農業改良普及課

〒496-8532 津島市西柳原町

1-14

今回は、肥料や堆肥成分の役割から土壌診断を考えてみましょう。

## 1 肥料の6要素の効果

### (1) 窒素 (N)

タンパク質の主成分。根や葉の生長を促進するため、「葉肥」とも呼ばれます。過剰に与えると病害虫に弱くなり、不足すると葉が黄色くなって落葉します。

### (2) リン酸 (P)

開花と結実に関係し、「花肥」「実肥」とも呼ばれます。花付きや実付きをよくするのに必要な要素です。植物体内のエネルギー伝達で重要な役割があります。

### (3) カリウム (K)

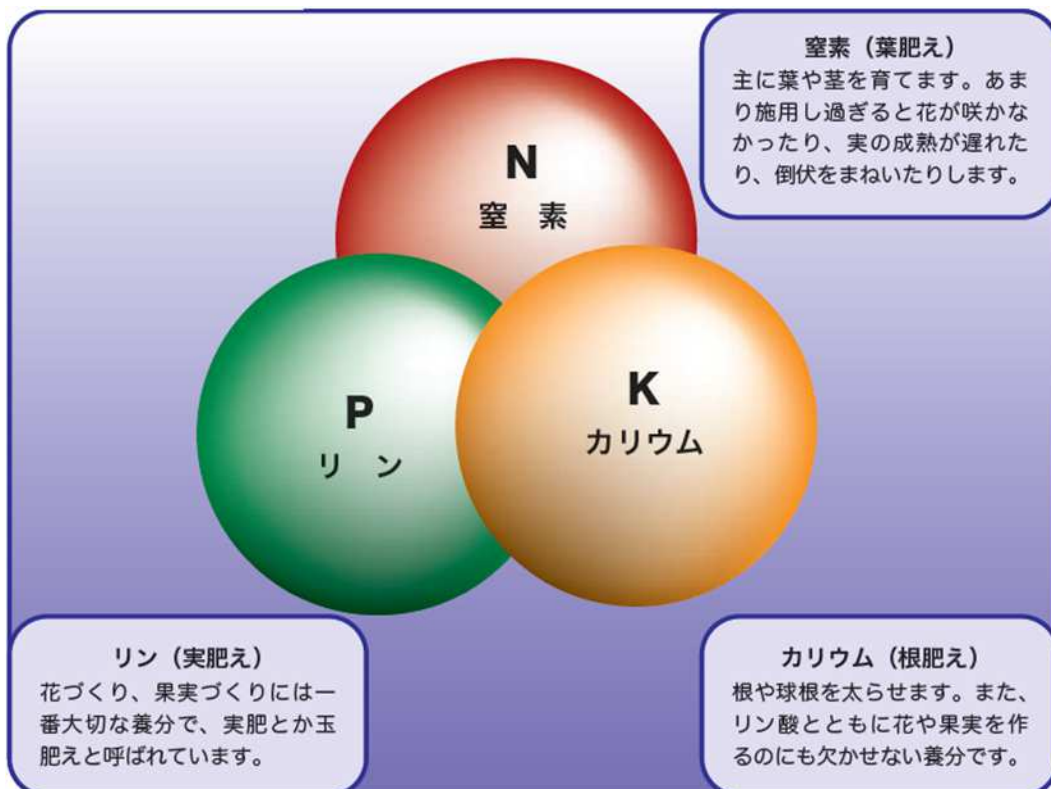
根の発育を促進するため、「根肥」と呼ばれています。光合成や炭水化物の移動や蓄積にも関係し、開花や結実を促進する働きもあります。

### (4) カルシウム (Ca)

細胞同士を強く結びつけ、根の伸長を促進する働きがあります。植物体内の有機酸を中和する役割もあります。

### (5) マグネシウム (Mg)

光合成に必要な葉緑素の成分です。リン酸の吸収と体内移動にも関与しています。



(6) イオウ (S)

窒素と同様、タンパク質の主成分です。ビタミンなどの化合物も作ります。リン酸と同じくらい多量に必要で不足すると病害虫に弱くなります。

2 畑地土

土壤診断から、下の表を確認してみ

壤の改善目標

結果を受け取ったを目安に改善目標をしましょう。

表 1 普通畑における改善目標

土壌の性質	土壌の種類		
	褐色森林土、褐色低地土、黄色土、灰色低地土、泥炭土、暗赤色土、赤色土、グライ土	黒ボク土、多湿黒ボク土	岩屑土、砂丘未熟土
作土の厚さ	25cm 以上		
主要根群域の最大ち密度	山中式硬度計で22mm 以下		
主要根群域の粗孔隙量	粗孔隙の容量で10%以上		
主要根群域の易有効水分保持能	20mm/40cm以上		
pH	6.0以上6.5以下 (石灰質土壌では6.0以上8.0以下)		
陽イオン交換容量 (CEC)	乾土100g当たり12meq以上 (ただし中粒質の土壌では8meq以上)	乾土100g当たり15meq以上	乾土100g当たり10meq以上
塩基状態	塩基飽和度	カルシウム、マグネシウムおよびカリウムイオンが CECの70~90%を飽和すること	同左イオンが CECの60~90%を飽和すること
	塩基組成	カルシウム、マグネシウムおよびカリウム含有量の当量比、(65~75):(20~25):(2~10) であること	
有効態リン酸含有量	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上100mg以下	乾土100g当たりP <sub>2</sub> O <sub>5</sub> として10mg以上75mg以下
可給態窒素含有量	乾土100g 当たり N として5mg 以上		
土壌有機物含有量	乾土100g当たり3g以上	—	乾土100g当たり2g以上
電気伝導度	0.2mS/cm以下		0.1mS/cm以下

表 2 畑の植え付け前の適性 EC の目安 (mS/cm)

土の種類	作物の種類	
	果菜類	葉・根菜類
腐植質黒ボク土	0.3~0.8	0.2~0.6
粘質土・沖積土	0.2~0.7	0.2~0.5
砂質土 (砂丘・未熟土)	0.1~0.4	0.1~0.3

出典：図解でよくわかる農業のきほん（誠文堂新光社）、土壤診断によるバランスのとれた土づくりー土壤診断による土づくりは健康的で美しい作物作りの第一歩ー（財団法人 日本土壤協会）